

不安抑うつ状態に対し、 人参養栄湯が効果的であった一例



網谷 真理恵 先生

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 地域医療学分野

2006年 鹿児島大学医学部 卒業
 2008年 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 医員(心身医療科)
 2011年 がん研有明病院 漢方サポート科
 2012年 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 医歯学教育開発センター 助教
 2014年 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 離島へき地医療人育成センター 特任助教
 2017年 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 地域医療学分野 講師

はじめに

不安と抑うつには重複があることがよく知られており、プライマリケアを受診する患者でも、不安や抑うつ状態を示す症例は多い。不安・抑うつ状態に対しては半夏厚朴湯や柴朴湯が用いられるが、気血両虚であれば人参養栄湯や加味帰脾湯が用いられることがある。

本講演では、脳梗塞後のうつに対する人参養栄湯の効果について検討する。

症 例

症 例：66歳 男性。

主訴：不安感、倦怠感、食欲低下。

現病歴(図1)：X-5年3月、急性心筋梗塞で心臓カテーテルの待ち時間中に左側頭葉～頭頂葉の脳梗塞を発症した。失認・失語のため約2ヵ月間入院した。X-5年8月頃から特に誘因なく、何かが押し寄せてくる感じ、心配・不安感・倦怠感が強くなった。うつ病の診断でロフラゼブ酸エチルと半夏厚朴湯を処方されたが無効であり、精神科へ入院となった。活動性が向上しないまま、退院後に当科を紹介受診した。

初診時所見：図2に示す。

漢方医学的所見(図3)：明らかな抑うつ気分の訴えはないものの、意欲は低下し、一日中寝て過ごしている。やる気がおきず、リハビリにも通おうとしない。他者との関わりを避け、人と会おうとせず、外出もまったくしない。

図1 症例 66歳 男性

主訴

不安感、倦怠感、食欲低下

家族歴

特記事項なし

現病歴

X-5年3月：急性心筋梗塞で心臓カテーテルの待ち時間中に左側頭葉～頭頂葉の脳梗塞を発症した。失認・失語のため、約2ヵ月間入院し、同年5月に心臓バイパス手術を施行した。

X-5年8月頃より、特に誘因なく何かが押し寄せてくる感じ、心配、不安感、倦怠感が強くなった。

ロフラゼブ酸エチル(2mg/日)と半夏厚朴湯(6g/日)を処方されたが効果がみられず、精神科へ入院となった。

退院後当科へ紹介となった。

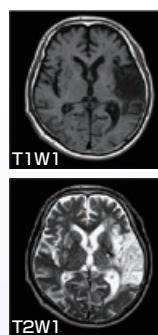
図2 初診時所見 -西洋医学的所見-

身長：167cm、体重：65kg、血圧：135/84mmHg、脈拍：85回/分
 胸部所見：心音 異常なし、呼吸音 異常なし

血液学的検査

● 末梢血	● 生化学検査
WBC 2490/ μ L	TP 4.8g/dL
RBC 292万/ μ L	Alb 3.0g/dL
Hb 9.3g/dL	T-Bil 0.7mg/dL
Ht 25.6%	AST 41 IU/L
MCV 88fl	ALT 70 IU/L
MCHC 36.3g/dL	LDH 255 IU/L
Plt 18.6万/ μ L	ALP 259 IU/L
	γ -GTP 78 IU/L
	AMY 229 IU/L
	BUN 6.2mg/dL
	Cr 0.67mg/dL

頭部CT検査



側頭葉に梗塞巣を認めた。

疲労感を強く感じ、集中力がなく一日中ぼーっと過ごすことが多い。楽しみが感じられない。手足の冷えがあり、食事は一日1~2食と低下していた。脈候はやや沈、皮膚は乾燥している。舌候は苔薄白で舌下静脈怒張はない。腹候は腹力2/5、心下痞鞭(軽度)、小腹不仁を認めた。以上の所見から気血両虚の状態と考えた。

臨床経過(図4) :意欲低下、倦怠感が強く、皮膚乾燥、冷えもあり、気血両虚と考え半夏厚朴湯から人參養榮湯に変方した。人參養榮湯の服用2週間後には妻より「日中に起きている時間が長くなった」など行動に変化がみられた。1ヵ月後には、「朝少し家事を手伝ってくれるようになった」「リハビリを行ってくれた」、2ヵ月後には「友達が家に来たりして、楽しみがあるような感じがする」と気分にも変化がみられた。疲労感は改善し、活動性が向上した。人との関わりも増え、リハビリにも積極的に通うようになった(図4)。

図3 初診時所見 -漢方医学的所見-

- 体格中内中背
- 明らかな抑うつ気分の訴えはないが、意欲は低下し、一日中寝て過ごしている。
やる気がおきず、リハビリにも通おうとしない。
他者との関わりを避け、人と会おうとしない。
外出をしようとしない。疲労感を強く感じる。集中力がなくぼーっと過ごすことが多い。
楽しみが感じられない。
- 手足の冷え(+)、食欲低下 1~2食/日
- 脈候: やや沈、中、皮膚乾燥
- 舌候: 苔薄白、舌下静脈怒張(-)
- 腹候: 腹力2/5、心下痞鞭(軽度)、胸脇苦満(R/L -/-)
振水音(-)、腹直筋の緊張(-)、瘀血圧痛点(-/-)、
小腹不仁(+)

→ 気血両虚

図4 臨床経過 -弁証:陰虚・血瘀・湿熱-

- 意欲低下、倦怠感が強く、皮膚乾燥、冷えもみられ、気血両虚と考え半夏厚朴湯から人參養榮湯に変方した。
- 人參養榮湯(7.5g/日 分2)服用2週間後の変化
「日中に起きている時間が長くなった」、「テレビを観ようとしたり、興味を持つようになった」
- 1ヵ月後の変化
「朝少し家事を手伝ってくれるようになった」「リハビリを行ってくれた」
- 2ヵ月後の変化
「友達が家に来たりして、楽しみがあるような感じがする」
疲労感が改善し、活動性が向上。
人との関わりも増え、リハビリにも積極的に通うようになった。

考 察

人參養榮湯は12生薬で構成されており、十全大補湯から川芎を去り、陳皮・遠志・五味子が配合されている。五味子・遠志は中枢作用、抗ストレス作用があり、健忘にも効果がある気血双補の処方である。

人參養榮湯について『和剤局方』では、体全体が衰弱し、いろいろや憂うつな感じを覚えて、みじめで寂しい気がする、寝てばかりとうつ状態の効果が述べられているが、遠志には抑うつ気分を改善する作用が報告されており、本症例においても抑うつ気分の改善がみられている。また、人參養榮湯は食欲促進、認知機能改善、疲労改善効果、抗うつ効果、骨格筋強化、活動量増加作用や神經保護作用が報告されていることから、本症例のように脳梗塞後の抑うつ状態に効果的であることが示唆された。

Discussion

木村:半夏厚朴湯が無効の抑うつ状態をどのように解釈すればよいですか。

網谷:本症例は、半夏厚朴湯を用いるような気うつの状態ではなく、脳梗塞後の抑うつ状態で失語などの脳梗塞後の後遺症と、それによる意欲の低下から、気虚の状態であったと考えています。

木村:遠志が含まれる加味帰脾湯との鑑別について教えてください。

網谷:加味帰脾湯はいろいろや不安があり、思い悩むような反復思考の強い場合に用いますが、本症例は悩むまではいかないような気虚の状態のため人參養榮湯を選択しました。

木村:老人性のうつ症状にはハ味丸も使用されますが、老人性のうつには腎虚が関与しているということですか。

網谷:老人性のうつには腎虚が関与している場合もあります。